

国際交流のカギは「通じ合いたい気持ち」

～松山市中学生の韓国・平澤市主催、韓・中・日青少年交流キャンプ参加報告～

ソウル事務所

2011 年 7 月 24 日～29 日に、松山市の中学生が松山市の友好都市、韓国・平澤（ピョンテク）市主催の韓・中・日青少年交流キャンプに参加しました。

これは、(財)松山国際交流協会が、国際性豊かな人材の育成を目的に中学生を姉妹・友好都市に派遣する「まつやま中学生海外派遣事業」によるものです。

今回の交流キャンプでは松山市の中学生のほか、中国・寧波（ニンポー）市及び秋田県の高校生が平澤市中・高校生と交流しました。



海外活動支援として、この交流キャンプに参加しましたので、その様子を報告します。

交流キャンプに参加した松山市と平澤市の中学生

1 パートナーとの出会い

このキャンプでは日本、中国の生徒とホームステイ先の平澤市の生徒がパートナーとなり、ペアで行動しました。パートナーとの初対面では少し緊張した様子で、「アンニョンハセヨ（こんにちは）」などと挨拶を交わした後は、どうコミュニケーションを図ればいいのか戸惑う様子も見られました。しかし、英語やジェスチャーを用いて一生懸命コミュニケーションを図るうちにパートナーとも打ち解け、気が付けば肩を組んだり手をつないだりして一緒に歩いており、まるでずっと前からの友達のようになっていました。

2 ホームステイ

多くの生徒が最も楽しみにしていたのが「ホームステイ」でした。その日のプログラム終了後夕方から翌朝までの形で2泊行い、家族と韓国の家庭料理を食べたり、韓国や日本の文化や流行について話すなどして過ごしました。家族と平澤市内に買い物に出かけた生徒は、スーパーに日本の商品が多いことや、日本の漫画の韓国語版を見つけて驚いていました。

日本語が通じる家庭もありましたが、ほとんどは韓国語と英語、または韓国語のみ通じるという状況でした。生徒たちは、パートナーに助けをもらいながら英語やジェスチャー、そして覚えた韓国語を交えて家族ともコミュニケーションを図っていました。

3 韓国の伝統・文化体験

韓国の伝統文化体験では、伝統衣装のチマ・チョゴリやパジ・チョゴリを試着しました。また、韓国の民俗遊びのユンノリ（すごろくに似た遊び）、チェギチャギ（小銭などを紙や布で包んで蹴る遊び）、トホ（矢を壺の中に投げ入れる遊び）など、主にソルラル（旧正月）やチュソク（旧盆）に行う遊びを体験しました。生徒たちは日本にも似た遊びがあるのは知っていましたが、ほとんどの生徒は初体験で、とても興味を持って挑戦し、成功するとパートナーとハイタッチをして喜んでいました。

陶磁器の絵付け体験では「友達」をテーマにグループで1つの作品を作り上げました。この作品は焼き上げた後に平澤市青少年文化センターに展示されています。



韓国の伝統衣装チマ・チョゴリの試着



壺を目がけて矢を投げ入れるトホ



韓国の料理作り（チヂミ）

韓国の料理体験では、チヂミやマンドウなどを講師に教わりながら、材料の仕込みからすべて自分たちで行いました。チヂミは生地を作って焼くだけでしたが、マンドウは野菜を刻み肉と混ぜ合わせ、具を皮で包むなど手間もかかるため、終了間際まで慌しく作っていました。

ほとんどの生徒が初めて自分で韓国料理を作り、食べましたがおいしくできて満足していました。

4 所感

交流キャンプの開催にあたり、平澤市の職員や大学生を中心とした運営スタッフなど、多くの方々にご協力をいただきました。

このキャンプへの参加を通じて以下の3点について認識することができました。

① 「国際交流のカギは『通じ合いたい気持ち』」

初めて訪問する国で初対面の生徒同士がコミュニケーションを図るのは大変な努力が必要ですが、通じ合いたいという気持ちで精一杯言葉やジェスチャーで表現すれば、その気持ちが相手にも伝わり、自然に打ち解けることができていました。

② 「伝統・文化体験による韓国の魅力発見」

伝統・文化体験は、韓国や平澤市について理解するうえで貴重な経験でした。日本と似たものや違うものを発見することで、親しみや新たな魅力を実感できました。また、生

徒たちは韓国語にも興味を持ち、生徒同士の会話でも、「チンチャ？（え、本当に？）」などと自然に韓国語が出ていました。言葉を知ることにより親密な関係を築くことができていました。

③ 「国や世代を超えた多様な交流」

このキャンプで平澤市の中学生のみならず、中国・寧波市や秋田県の高校生とも交流することができました。高校生が積極的にコミュニケーションを図る姿は中学生にとって刺激になったと思います。

このキャンプが終わった翌週には平澤市の中学生が松山市を訪問し、ホームステイや道後温泉での浴衣着付け体験、中島での海水浴などで交流しました。松山市と平澤市の中学生が両市で約2週間にわたって同じ時間を過ごしたことは忘れられない思い出になることでしょう。

このキャンプに参加した中学生や、関わった多くの方々が今後、松山市と平澤市、また日本と韓国をつなぐ架け橋となってくれることを期待しています。

(松崎所長補佐 松山市派遣)

